

まえがき

平成十七年七月、同窓にして俳誌『櫻草』主宰の村上谿馨氏を主宰として始まった東北大鬼城句会は、満四年を経過し、二十四回の例会を重ねました。

その句会結果は、初回から毎回ホームページに掲載されていますが、昨年五月句会開催直後、思わぬ病に見舞われた主宰の療養が続いており、その後の句会結果の主宰への報告も兼ね、当句会の初句集を発行するにいたりました。

会員一六名全員による句集で、句会で各々発表した句の中から自選一人一〇句を標準にコメントを添えました。谿馨先生の本復・句会復帰を待ち望んでいる熱い気持は、各々のコメントに思いが凝縮されていますので、ここでは省きます。

句会の兼題は別に記載あるように毎回指定されます。会場は通常は学士会館ですが、楽しみにしてきた年に一度の鬼城草庵での開催は先生の回復までお預けになっております。尚、当句会について、主宰の村上谿馨氏が、平成二〇年五月発行の記念文集『野鶴』（東北大法学部昭和三八年卒業同期生）に「どっこいちゃんと続いて丸三年！」の題で面白味豊かに語っていることを申し添えます。

句集タイトルは、夏鳥として日本に渡来する『三光鳥』としました。アイリングと嘴が青色、尾が体長の三倍位長く、眩いほど輝き、「ツキヒーホシ、ホイホイホイ」の囀りに虜になります。この句会と会員が、月日星（ツキヒーホシ）の光に夜も日も長く輝くよう、当句会のシンボルとしたいと考えています。（貞風）

目次

まえがき 2

主宰吟 村上谿馨 4

会員の句と文

伊東興山 6

岩淵如雨 8

内山竹林 10

小川修人 12

奥山游悦 14

加賀美竹風 16

小林幸風 18

鈴木蓮圀池 20

高橋啓窓 22

中野仲安 24

平山越庵 26

松本貞風 28

三浦三甫 30

武蔵弁慶 32

合田三鬼堂 34

あとがき 36